National

施工説明書

リフォーム階段 Ⅱ

品番 MYZシリーズ

■施工開始前に必ずお読みください。
■施工者の安全と使用者の安全確保のために、この施工説明書をよくお読みになり、安全で正しい施工を行ってください。
■この商品は、建築基準法などの法令・法規に従って施工してください。
■梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。
■施工説明書、取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。(施工完了後、使いかたを説明してください。)

1 安全上のご注意　必ずお守りください

■ここに示した注意事項は、製品を正しく施工していただき、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で説明しています。

⚠警告　施工を誤った場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

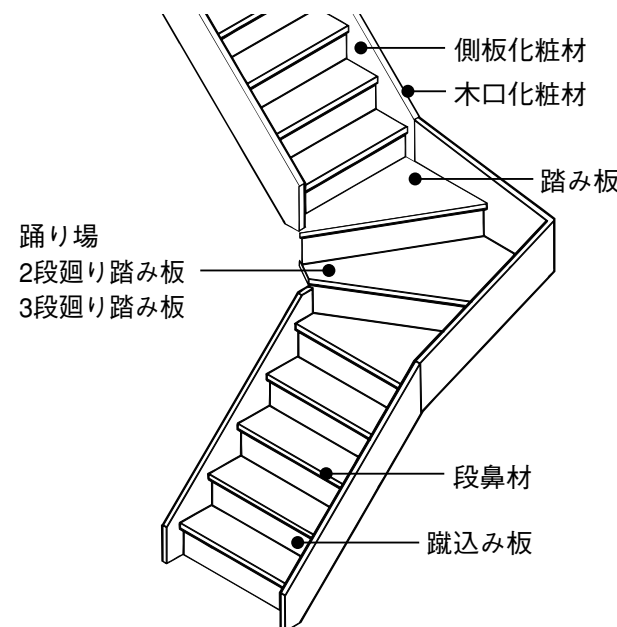
このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

このような絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

禁止	●施工時に商品仕様を変えるような加工をされた場合は、品質保証責任を負いかねます。	必ず守る	●接着剤が硬化するまで(夏期:約1日　冬期:約2日)、階段の昇降には十分注意する。 注意しないと、仮釘などの突起物につまずき、転落事故が起こるおそれがあります。
	●ワックスを使用しない。 滑ってけがをするおそれがあります。		
必ず守る	●施工前に既存の構造物が積載過重に耐える構造であることを確認する。(また下地補強を事前に行っておく。) 強度が十分でないと転落事故が起こるおそれがあります。		●接着剤を使用する際は、閉め切った場所で行わず、十分な換気をする。 接着剤の容器などにある注意表示に従い、正しく使用してください。
	●すべり止め樹脂は、浮き上がり・めくれ上がりがないように取り付ける。 浮き上がり・めくれ上がりがあると、転落事故が起きたり、けがをする原因となります。		●仮釘は、接着剤硬化後(夏期:約1日　冬期:約2日)に必ず抜く。 釘が残っていると、釘が飛び出し、けがをするおそれがあります。
	●部品(ビス・釘など)は指定の物を使用する。 使用しないと事故の原因となります。またはずれの原因となります。		●施工後は必ず確実に取り付いたことを確認する。 確認しないと事故の原因となります。

施工前の注意

●開梱後、商品に損傷がないかを確認してください。取り付け後の損傷に関しましては責任を負いかねます。
●商品は湿気や直射日光の当たる場所を避け、水平な場所に保管してください。
(反り、ねじれの原因となります。)
●ワックスを使用しないでください。
(階段の塗装はワックスをはじきます。)
●シンナー・ベンジンなどの溶剤は使用しないでください。
(表面のつやが変わったり、変色するおそれがあります。)
●接着剤が付着した場合は、すぐにふき取ってください。
(接着剤は硬化するととれなくなります。)
●施工前に必ず既存の階段(踏み鳴りの有無)の状態を確認してください。
(リフォーム後も踏み鳴りが発生するおそれがあります。踏み鳴りが発生する場合は、補修してから施工を行ってください。)
●接着剤は必ず専用の接着剤(QPZ02)をご使用ください。(木口化粧材のみ水性ゴム系接着剤を使用)
(表面のふくれ、接着不良によるはがれなどの原因となります。)
●商品は既存の踏み板の厚みが36mm以下の対応です。

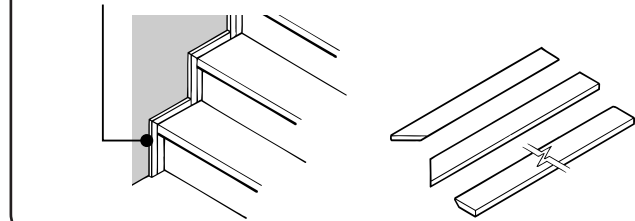
注意 施工後に踏み板を木製からカーペット(およびその逆)へ変更することはできません。

この説明書は再生紙を使用しています。

ラ-32　第1版 0605

2 各部のなまえ

[寸法単位:mm]

現場調達品

・仮釘	・フィニッシュネイル
・下地材	・目地用シーリング剤
・養生シート	・クレヨンパテ(QP823□)
・フロア用養生テープ	・水性ゴム系接着剤 (※VOC対策品をご使用ください)

3 施工前の確認

※施工前に必ず下記のことを確認してください。

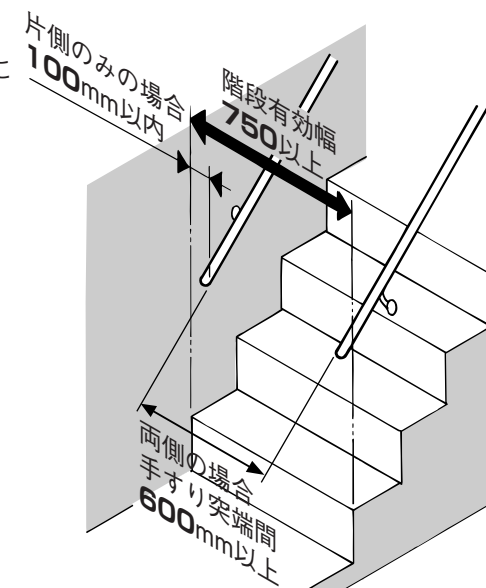
[寸法単位:mm]

1 階段有効幅の確認

階段有効幅寸法

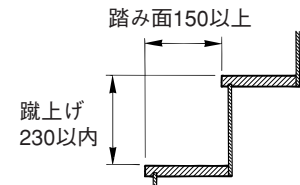
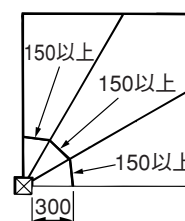
階段有効幅は建築基準法に基づき、750mm以上確保してください。

〈手すりが片側の場合〉
手すりの突出する部分が壁面仕上げ面から100mm以内であれば階段有効幅の750mmに算入することができます。

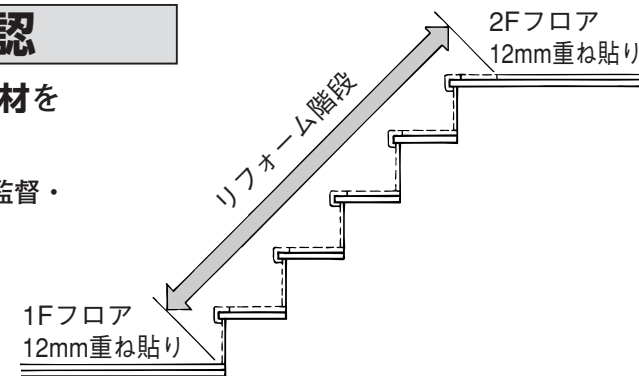
〈手すりが両側の場合〉
手すりの突端間が600mm以上あることが必要です。

⚠警告

必ず守る

階段事故防止のため、建築基準法に基づき、下図の寸法を必ず確保する。
確保しないと転倒事故の原因となります。

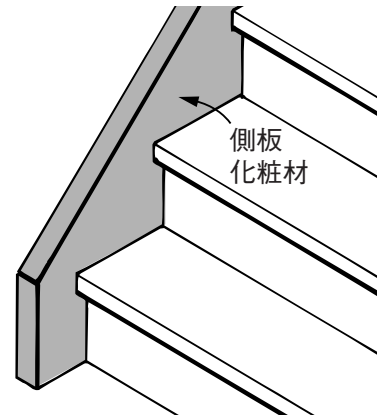
踏み面・蹴上げ寸法

※廻り階段を使われる場合は、90°で3段割り以内にしてください。

2 リフォーム階段の納まりの確認

本リフォーム階段は、各階のフロアに**12mm厚の床材**を**重ね貼り**することを前提としています。

●住宅(建築物)との兼ね合いがありますので、現場監督・建築士などと相談のうえ、仕様決定してください。
●既存の階段への固定が不十分な場合、踏み鳴りのおそれがあります。ご注意ください。

■施工方法には、側面の納めかたによって側板化粧材を使う場合と幅木を使う場合があります。
また、踏み板が木製の場合とカーペットの場合があります。

※踏み板(カーペット)の場合は施工手順が変わります。別紙を参照してください。

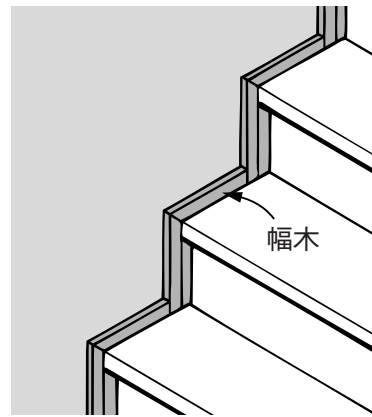
A.側板化粧材を使う場合

小さなすき間はシーリング剤を充てんします。

施工のながれ

（4—A 参照）

1. 既存階段の下地処理
2. 側板化粧材の取り付け
3. 蹴込み板の取り付け
4. 踏み板の取り付け
5. 段鼻材の取り付け
6. 上框部分の仕上げ
7. 床材の重ね貼り

B.幅木を使う場合

踏み板・蹴込み板と壁とのすき間を幅木で隠します。

施工のながれ

（4—B 参照）

1. 既存階段の下地処理
2. 蹴込み板の取り付け
3. 踏み板の取り付け
4. 幅木の取り付け
5. 段鼻材の取り付け
6. 上框部分の仕上げ
7. 床材の重ね貼り

4 施工のしかた

［寸法単位：mm］

■接着剤の塗布のしかた

接着剤はヘラで全面に塗り広げてください。

- 当て木をした場合は、接着剤の硬化後、当て木をはずしてください。釘穴はクレヨンパテ（QP823□）で穴埋めしてください。
- 接着剤がはみ出した場合は、すぐにふき取ってください。

A.側板化粧材を使う場合

A—1 既存階段の下地処理

1. 幅木、カーペットなどを取りはずす。
2. 既存階段の表面をサンダー・カンナなどで削り、ワックスや油分や塗膜などを取り除き、不陸を押さえ平滑にする。

表面の汚れなどは必ず取り除いてください。
表面に汚れなどが残っていると、接着不良の原因になります。

3. フロアと上框に段差がある場合には、サンダー・カンナなどで削り、段差をなくす。

A—2 側板化粧材の取り付け

注意
- 側板化粧材を取り扱う際は、折れないように注意してください。
- 側板化粧材は1枚より2丁取りしますので、寸法採りには十分注意してください。

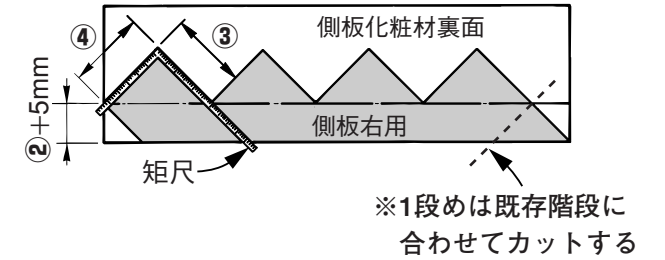
1. 既存側板の寸法測定

図の①〜④の寸法を測定する。

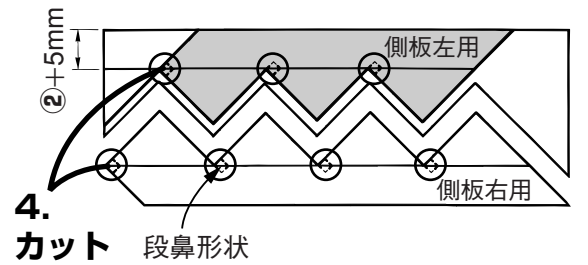
①寸法が10mm未満の場合

下地材（現場調達）を既存側板に取り付ける。

2. 側板化粧材（側板右用）のカット

側板化粧材**裏面**に寸法採りを行い、化粧面の形状に合わせてカッターで現場カットする。
※側板化粧材は3〜4段の長さにカットしてください。（図は4段の場合）
貼りズレを少なくできます。

3. 側板化粧材（側板左用）のカット

側板左用のマーキングに、**2.**でカットした側板化粧材を裏返して使用し、カットする。

※側板化粧材1枚から右用4段分・左用3段分をカットし、2枚目から右用3段分・左用4段分をカットしてください。

4. 側板化粧材（段鼻部）のカット

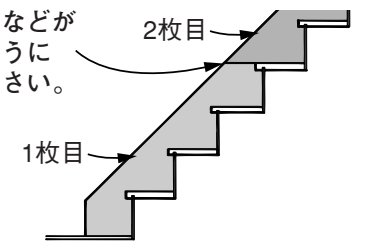
2. 3.でカットした側板化粧材の段鼻部をカットする。

警告 必ず守る

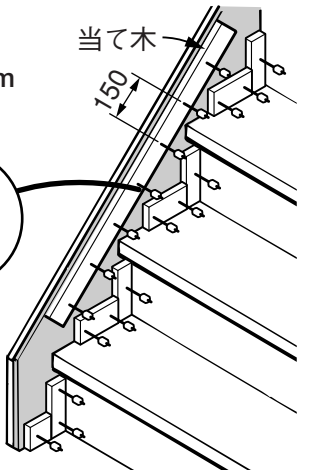
仮釘は、接着剤硬化後に必ず抜く。

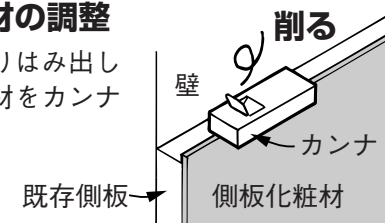
釘が残っていると、釘が飛び出し、けがをするおそれがあります。

5. 納まりの確認

仮置きで納まりの確認をする。
※右図のように納まります。
段差・すき間などが発生した場合は、クレヨンパテ（QP823□）で埋めてください。

6. 側板化粧材の取り付け

側板化粧材の裏面全体に専用ウレタン接着剤（QPZ02）を塗布し、当て木・仮釘を併用して既存側板に取り付ける。
接着剤が硬化するまで（夏期：約1日　冬期：約2日）養生する。

浮きがないように側板化粧材を取り付けてください。

7. 側板化粧材の調整

既存側板よりはみ出した側板化粧材をカンナで削る。

8. 木口化粧材の取り付け

側板上面・側面に木口化粧材を水性ゴム系接着剤（※VOC対策品をご使用ください）で接着する。

A－3 蹴込み板の取り付け

1. 幅カット

側板化粧材の内々寸法（側板化粧材を使わない場合は壁の内々寸法）に合わせて、蹴込み板**左側**をカットする。

2. 高さカット

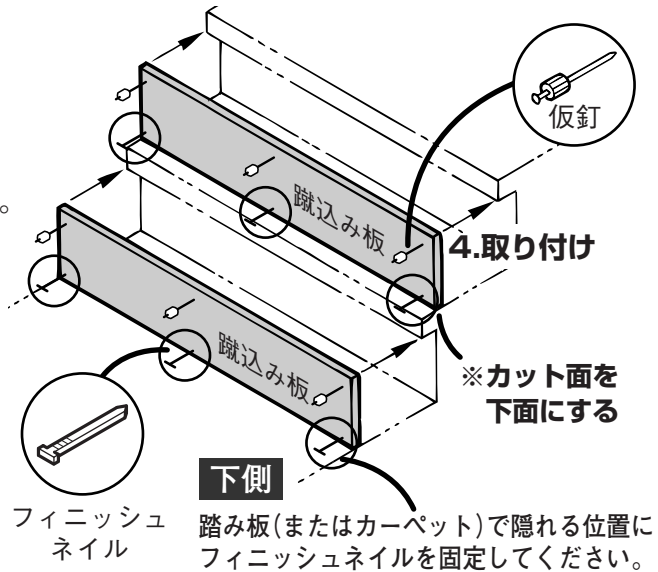
既存の蹴込み板に合わせて、蹴込み板**下側**をカットする。

注意 既存の階段の高さ寸法は、各段によって多少の違いがある場合があります。一段一段寸法を測ってカットしてください。

3. 納まりの確認 仮置きで納まりの確認をする。

注意 無理に押し込むと、取れなくなるおそれがありますので十分ご注意ください。

4. 接着

蹴込み板裏面全体に専用ウレタン接着剤（QPZ02）を塗布し、仮釘・フィニッシュネイルを併用して取り付ける。

A－4 踏み板の取り付け

※ここでは上框部分に踏み板を取り付けないでください。

1. 幅カット

側板化粧材の内々寸法（側板化粧材を使わない場合は壁の内々寸法）に合わせて、踏み板**左側**をカットする。

2. 奥行きカット

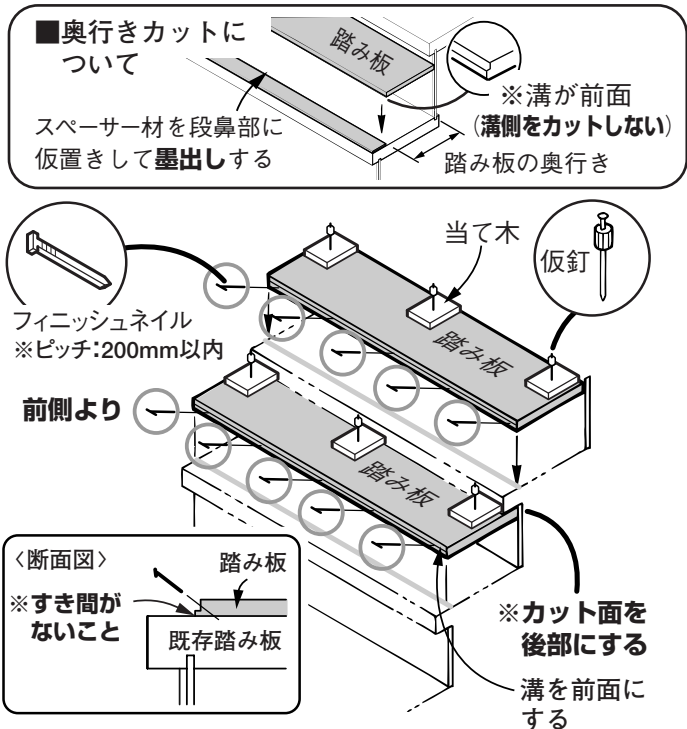
スペーサー材の余材を段鼻部に**仮置きし墨出し**する。墨出しした寸法に合わせて、踏み板**後部にくる側**をカットする。

3. 納まりの確認

仮置きで納まりの確認をする。

4. 接着

踏み板裏面全体に専用ウレタン接着剤（QPZ02）を塗布し、当て木・仮釘・フィニッシュネイルを併用して取り付ける。

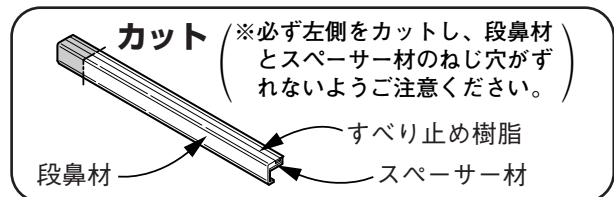
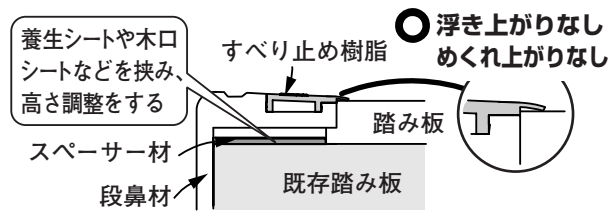
※フィニッシュネイルは斜め45度に200mm以内のピッチで打ち込んでください。

A－5 段鼻材の取り付け

1. カット

段鼻材・スペーサー材・すべり止め樹脂

側板化粧材・幅木の内々寸法（側板化粧材を使わない場合は壁の内々寸法）に合わせて、**重ねて一緒に左側をカット**する。

2. 納まりの確認 仮置きで納まりの確認をする。

注意 すべり止め樹脂の「浮き上がり」「めくれ上がり」が発生しないか確認してください。

「浮き上がり」「めくれ上がり」が発生する場合

3. 段鼻材の取り付け

①スペーサー材の取り付け

既存踏み板上面に専用ウレタン接着剤（QPZ02）を塗布し、スペーサー材を取り付ける。

②段鼻材の取り付け

スペーサー材上面・既存踏み板前面に専用ウレタン接着剤（QPZ02）を塗布し、段鼻材を取り付け、ねじ穴に合わせてねじ（同梱）で固定する。

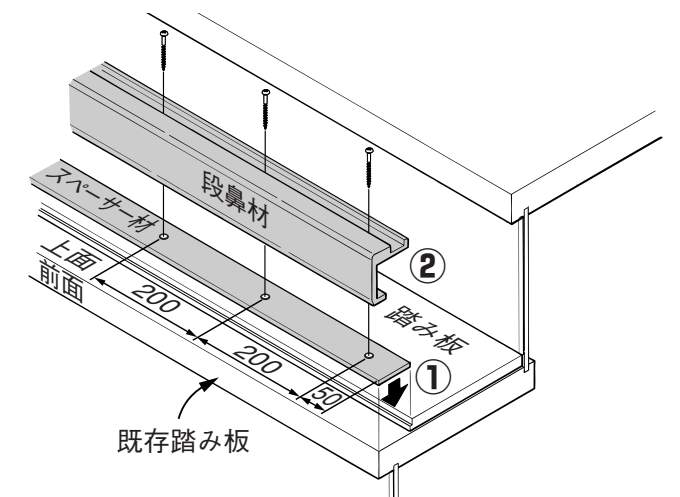
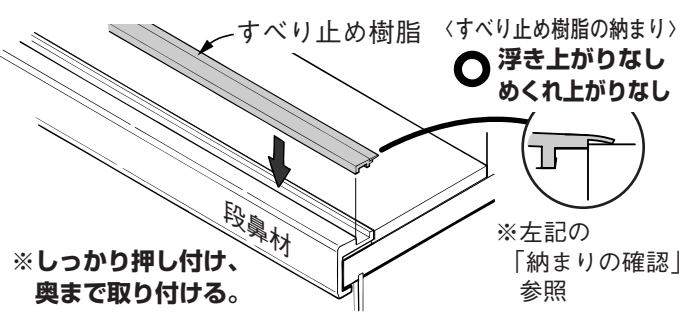
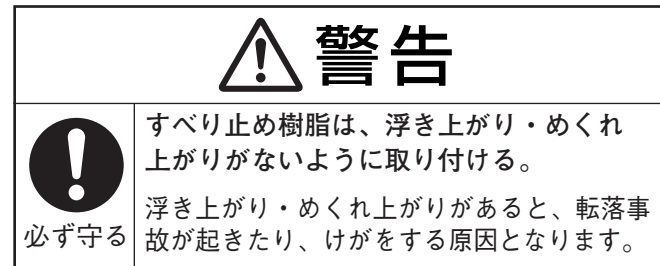
注意 ねじの固定は、段鼻材をしっかり押さえ、すき間のないように行ってください。

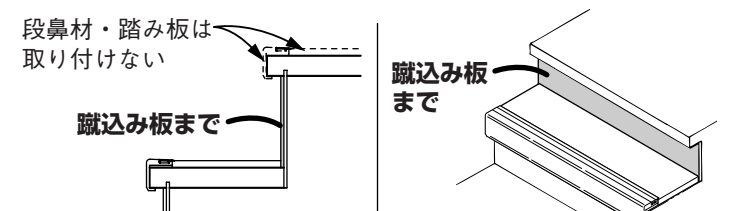
4. すべり止め樹脂の取り付け

警告

必ず守る

すべり止め樹脂は、浮き上がり・めくれ上がりがないように取り付ける。

浮き上がり・めくれ上がりがあると、転落事故が起きたり、けがをする原因となります。

A－6 上框部分の仕上げ

※2階フロアの床材の重ね貼りをしない場合は、上框部分の段鼻材・踏み板は取り付けないでください。
（蹴込み板までの重ね貼りとします。）

1. カット

段鼻材・スペーサー材・すべり止め樹脂 ※ **4** － A－5 参照

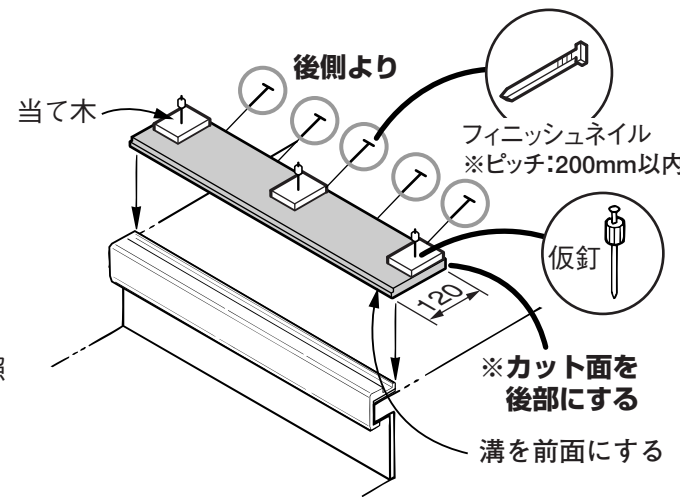
踏み板　幅　：**4** － A－4 の階段部分と同様に行う。
奥行き：約120mmにする。

2. 納まりの確認 仮置きで納まりの確認をする。

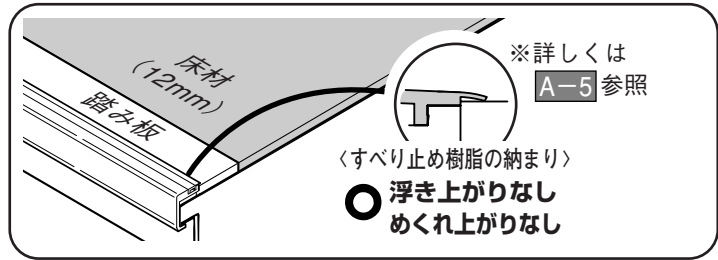
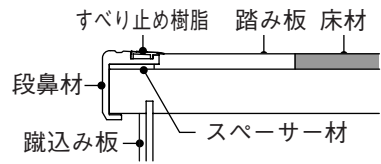
3. 段鼻材の取り付け ※ **4** － A－5 参照　＊ここでは段鼻材にすべり止め樹脂を取り付けないでください。

4. 踏み板の取り付け

接着 踏み板裏面全体に専用ウレタン接着剤（QPZ02）を塗布し、当て木・仮釘・フィニッシュネイルを併用して取り付ける。

※フィニッシュネイルは斜め45度に200mm以内のピッチで打ち込んでください。

5. すべり止め樹脂の取り付け ※ **4** － A－5 参照

A－7 床材の重ね貼り

●階段部分を全て貼り上げた後、上下階フロアに12mmの床材を重ね貼りする。

B.幅木を使う場合

B－1 既存階段の下地処理
※ A－1 参照

B－2 蹴込み板の取り付け
※ A－3 参照

B－3 踏み板の取り付け
※ A－4 参照

B－4 幅木の取り付け

1. 幅木（たて・横用）のカット

幅木の高さ・幅を既存階段の蹴上げ・踏み面に合わせてカットする。

※たて勝ちの納まりになるようにカットしてください。

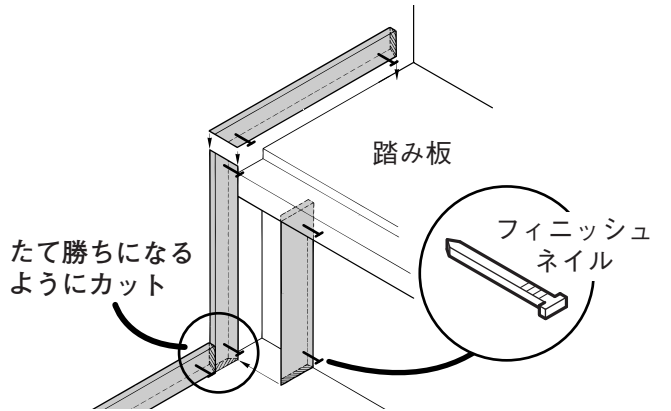
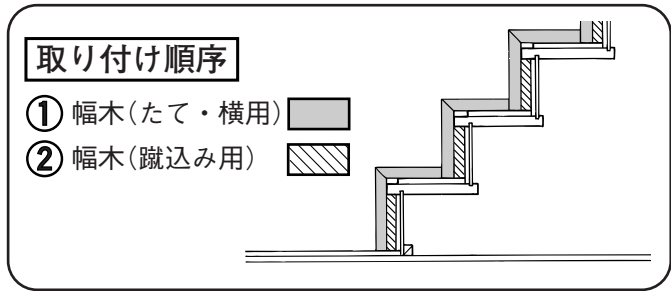
2. 幅木（蹴込み用）のカット

幅木を鼻の出の下部の形状に合わせてカットする。

3. 納まりの確認

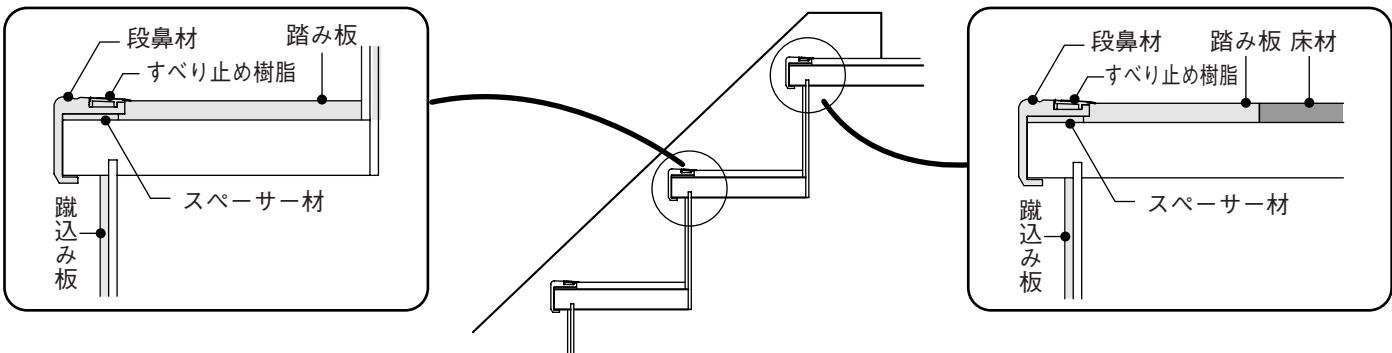
仮置きで納まりの確認をする。

4. 接着

幅木裏面に専用ウレタン接着剤（QPZ02）を塗布し、フィニッシュネイルを併用して取り付ける。

B－5 段鼻材の取り付け
※ A－5 参照

B－6 上框部分の仕上げ
※ A－6 参照

B－7 床材の重ね貼り
※ A－7 参照

5 納まり

6 施工後のお手入れと確認

注意 養生する際はフロア用養生テープを使用してください。
ガムテープなどの粘着力の強いものは使用しないでください。
※カーペットには養生テープを直接貼り付けないでください。
塗膜などのはがれの原因となります。

⚠警告
必ず守る
養生シートは動かないように確実にとめる。
確実にとまっていないと、転落事故の原因となります。また傷が付くおそれがあります。

■施工後のお手入れ

・養生をする前に必ず木くずやゴミを取り除いてください。
・施工完了後は、接着剤の硬化（夏期：約1日　冬期：約2日）を待って、当て木を取りはずしてください。仮釘の穴などはクレヨンパテ（QP823□）で穴埋めしてください。表面にはみ出しているものは、ふき取ってください。

■施工後の確認（下記の表に従い、施工の仕上がりをチェックしてください。）

チェック項目	チェック	チェック項目	チェック
接着剤が付着していませんか？		リフォーム階段が躯体に確実に固定されていますか？（ガタツキなどありませんか？）	
仮釘はすべて抜きましたか？			

※内装工事が続いてあるときは、梱包材などで商品の養生をおこなってください。
※梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。
※引き渡しの際は、養生を取りはずし、乾いた布でふいて仕上がりを再度確認してください。

お問い合わせは　ご購入いただいた販売店または弊社営業所へ
松下電工株式会社　建材事業本部　内装システム事業部［〒571-8686］大阪府門真市門真1048